

人を見た目や雰囲気だけで判断して、人間関係が上手くいかないと一方的に感じたことはないだろうか。

本来日本人は「察する」ことで場の空気を読むのが得意であり、そうして他者との衝突を回避してきた。しかし、それは時に自分と他者との間にそれ以上踏み込んではいけないというボーダーラインを作り上げてしまうことにもなりかねない。

例えば、学校生活の中では仲の良い友人と毎日を過ごすことが多く、普段からあまり話さない人とはどうしても疎遠になつてしまうことがある。そうして話さないでいるうちに、お互いに話すことに抵抗を感じ、無意識に隔たりができてしまう。しかし、この隔たりを乗り越えて自分から話

しかけることができたから、相手も応じてくれて、多少の緊張感は解け、次からはもう少し話しかけやすくなるはずだ。

また、心理学には返報性の法則というものがあ

自ら垣根を越えよ

論説

る。それは、相手に好意を持つて接してもらおうと、その好意を無駄にしないためにこちらも相手に好意を持つてようになるという法則だ。つまり、もし誰かが自分を嫌うよ

うな様子を見せた場合、その人と距離を置きたいと思うかもしれないが、自分から相手に好感を持つて接すれば、相手も安心して心を開いてくれるということだ。

現在は高校生活の中で気の合う友人と一緒にいれば、楽しく充実した毎日を送ることができるとも思えない。しかし、将来社会に出ると、より多くの、そして様々な性格の人々と接する機会が増えてくる。その際に他者と距離を置いたりすると、自分の属している集団から知らず知らずのうちに孤立してしまうかもしれない。誰かと人間関係が上手くいかないと感じたら、今まで持つていた偏見を捨て、まず自分から相手に親しみをもち、信頼してみることが大切だ。